

普及活動情勢報告（平成26年4月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

J A津野山シトウ部会栽培講習会



熱心に説明を聞く生産者

J A津野山シトウ部会栽培講習会が4月4日に開催され28名の生産者が参加しました。

振興センターから定植前後の管理として、かん水の徹底による根の活着の促進や、遅れない適期の誘引について説明しました。参加者は、生育初期の樹づくりが重要と感じ、熱心に聞いていました。

振興センターでは、今後も現地検討会を通して、生産者に適期の栽培管理について周知を図ります。

J A津野山ナス部会総会・栽培講習会



J A津野山ナス部会講習会の様子

J A津野山ナス部会総会・栽培講習会を4月4日に開催し、18名の生産者が参加しました。

会では、定植後の管理として、低温等に遭遇して生育不良となった場合の対応、農薬使用記録簿への記帳、米ナスI P M防除マニュアル等について検討しました。土着天敵（タバコカスミカメ）や天敵温存植物を利用してアザミウマ類、コナジラミ類の防除を希望する生産者が9名出てきました。

今後、現地検討会を開催し、生産者、関係機関とともにI P M防除の効果について確認していきます。

J A津野山営農みらい塾入講式



関係者に見守られる入校生

平成26年4月7日、J A津野山営農センター輝において、営農みらい塾研修生の入講式がありました。農協組合長の挨拶として、「基礎の部分をしっかり学んで、早く土や野菜と語らうことができるようになってほしい。」とエールを送っていました。研修生の育成については、振興センターもJ Aと協議して指導體制の整備（専属指導者の配置）、就農候補地の取得や整備について早期の検討を関係機関で取組むこととしています。今後、就農後の就農給付金や県事業の活用も視野に入れ研修生をフォローしていきます。

芳生野営農生産組合の米ナスの定植が始まる（津野町）



組合員が定植した米ナス苗

平成26年4月6日、津野町の芳生野営農生産組合が雨よけ米ナスの定植を行いました。組合員15名が集い、振興センターの説明のもと米ナス36a分を植えていきました。組合も6期目に入り、柱となる米ナス栽培面積も規模拡大し、今ではJ A津野山ナス部会の出荷生産量の大きな一翼を担うようになりました。今後は、経営安定のために米ナスとの労力を考慮した補完的作目の導入や国の施策に基づく飼料米の検討を行っていきます。

龍王漬けの開発を目指して（栲原町）



粕漬けの品質を確認する組合員

平成26年4月6日、栲原町龍王営農組合は試作中の粕漬けの本漬け（2回目）を行いました。龍王営農組合は地元産の野菜等を使った加工品の販売を目指しており、フキとチャーテの粕漬けを試作しています。当日は、漬け混み程度、味、品質の確認と意見交換を行いました。振興センターとしては、農業創造セミナーへの参加等の支援を行なってきましたが、今後は、新たに取り組む原料（フキ、白ウリ、チャーテ）の栽培支援や、優良事例の紹介、適正表示等の支援を行い商品化に向けた支援をします。

J A土佐くろしおミョウガ部会が「出荷目慣らし会」を開催



給液管理について説明を聞くミョウガ生産者

ミョウガの出荷が本格的に始まるのに合わせて4月10～18日の間、J A土佐くろしおの大間・浦ノ内・上ノ加江の各集出荷場においてミョウガ部会「出荷目慣らし会」を開催し、延べ217人が参加しました。会では、J A販売課が販売報告と出荷調整の注意点を説明した後、出荷規格に沿って色合いを中心に、生産者が等階級を確認しました。振興センターからは、主に日射比例制御による効率的な給液管理について指導しました。今後は、腐敗防止対策の指導をJ Aと連携して行います。

J A津野山みょうが部会総会・講習会



振興センター職員の説明を聞く生産者

平成26年4月10日、営農センター輝においてみょうが部会総会が開催され、生産者20名が参加しました。総会では、議案の審議とともに平成25年度の優秀者の表彰が行われました。振興センターでは、農業の担い手の発掘・育成及び光合成促進のためのハウス内環境調節などについて、調査結果や栽培管理の説明を行いました。今後、関係機関と連携し、現地検討会などにより、部会員の技術向上を図って行きます。